

「パンダハウス」について

パンダハウスはこれまで20年に渡り、入院中の子どもに付き添う家族が休息をしたり、子どもの入院のため離ればなれになって生活している家族と一緒に過ごしたりできる「病院近くのもう一つのわが家」として活動してきました。この度、旧ハウスを建て替えし、入院中だけでなく、退院後の子どもや家族も「地域で安心して生活できる」ことを目指した相談事業を新たに行います。具体的には、専門の相談員を配置し、社会資源の紹介や就学・就労に関する相談など、子どもの成長に伴って生じる悩みを解決できるように手伝います。また従来の宿泊機能だけではなく、バス・トイレ付きの部屋を整備し、さらにゆっくりとからだを休めてもらう工夫をしたり、日帰り利用を充実させたりしました。多目的ホールでは、同じ経験をもつ子どもや家族同士の交流会の開催など、多様なニーズに応えられるよう機能を拡充しました。



多目的ホール



新しくできた相談室



バス・トイレ付きの部屋「とんとん」